

子育て教育部会 現地視察(ヒアリング)について

資料2

日時:平成30年8月10日(金)13:30~15:00
場所:中野中学校

参加者:【区政会議委員】藤本部長・榊委員、筒井委員、翠委員
平田委員(中野中学校元気アップ地域コーディネーター)
【中野中学校】山本校長先生
【区役所】齋藤課長・伊藤課長・池田係長

第1回子育て部会の様子



概要

区政会議(子育て教育部会)の議論の中で、『地域コミュニティと学校の連携をどのように作っていくか』が部会で検討していく議題として提案された。「元気アップ」の活動が地域と学校を繋げるきっかけになるのではないかとすることで、元気アップの取組の現状と課題を確認していくことが第2回子育て教育部会開催までの調査事項として決定した。

調査対象のモデルとして、校長先生も元気アップ活動などに力を入れており、学習面サポート、土曜授業など活発な校区だという意見から「中野中学校」へ現地視察を行い、校長先生とコーディネーターを交え意見交換を行った。

学校元気アップ事業

全中学校区において、地域の方々の協力を得ながら、地域社会全体で子どもを育てる仕組みとして「学校元気アップ地域本部」を設置し、生徒の生活習慣の確立や学力向上などの課題解消に向け、各学校のニーズに応じた取組を行う。

○活動内容

- 定期テスト前の放課後や夏休み等の学習会
- 読書活動や学校図書館の整備・閉館時間の拡大
- 緑化活動等の環境整備
- 部活動支援 など

中野中学校 元気アップ取組

【定期テスト前学習会】

中間テストや期末テスト前の6日間放課後にテスト前学習会として、また夏休み期間には「宿題やり切り隊」として自分の学習教材や宿題を使って自学自習。わからないところや疑問点を、学習支援ボランティアが指導。

【放課後自習室】

給食のある日は毎日、『放課後自習室』を運営。学びサポーター、教育活動サポーターが交代で図書室に常駐、放課後に自習にくる生徒たちの質問に対応。

【ENJOY!「英活」】中野中学校の子どもたちが、英語を生かし将来夢を持って世界に羽ばたくきっかけづくりに取り組む。スカイプを使って外国の子どもと話したり、ミシガン大学の学長と一緒に勉強を実施。毎月2回土曜の午後に活動。

おおさかしりつなかの学びがっさろ
大阪市立中野中学校

トップページ 学校概要 式辞文章 配布文書 行事予定 校区4小学校 元気アップ地域本部 中野の『夢★授業』 校長経営戦略

現在位置:トップページ > 元気アップ地域本部

【ボランティアさんを募集しています】元気アップ地域本部では下記の事業を展開しています。少しでも興味をお持ちいただいた方は 糸川敬頭

【定期テスト前学習会】

中間テストや期末テスト前の6日間放課後にテスト前学習会として、また夏休み期間には「宿題やり切り隊」として自分の学習教材や宿題を使って自学自習。わからないところや疑問点を、学習支援ボランティアさんに指導していただいています！



テスト前は放課後に、夏休みは午前中に教えてもらえますよ♪

【放課後自習室】

今年から、給食のある日は毎日、『放課後自習室』を運営しています。学びサポーターさん、教育活動サポーターさんが、交代で必ず一人は図書室に常駐



ヒアリング(各取組の工夫点等)

放課後学習 支援

→ 「定期テスト前学習会」...看板設置で「見える化」
日々は「放課後自習室」...表現を「学習」よりは緩やかに表現。
(部活をやめてしまった生徒等が) 帰宅後にくる「居場所」になっている。

図書室開放

→ 本を読むのではなく、話す場として「居場所」になっている。

ENJOY! 英活

→ ハロウィン・クリスマスなどイベントも開催、居場所のない子も来てくれ、英語を学ぶことだけではなく、友達を作って巣立っていく

→ 中学校のニーズとして英語力の向上がある。単語習得する学習習慣が必要、単語カードを英活で購入し、生徒に渡している。

ヒアリングと意見交換で挙げた課題等

- 元気アップ(学校・PTAのお助け隊)の取組みの認知度が低い ⇒見える化(発信)
- 地域コーディネーターの負担軽減や分担化・次の担い手の育成
- 学びサポーター・ボランティアの獲得にかかる課題(予算・周知・採用システム)
- 地域実情に応じた学校教員と地域の連携のあり方を模索(中野中と白鷺中でも異なる)
- 地域コーディネーター 繋ぎ役として貴重な人材、働きを**知ってもらう場**が必要
 - 取組・課題・連携の「見える化」(既に会合は年2回定例化)
 - ⇒区HPでリンク先集を発信し、お互いに知り、取り入れられることを発見できれば。
学校校長・教員との連携の深化・継続性の確保も必要。
- 元気アップとははぐくみネットの課題や取組方向の「見える化」「共有化」、「小中セットでの元気アップ」構築
(小・中の学校間連携会議は既に開催)



課題等の解決の視点

学校の会議増・教員負担増、生徒数減・学級数減で教員数も減、子どもに対して、子ども一人一人の教育的ニーズにあった適切な教育的支援を！

⇒ 会議の重複整理やIT活用による効率化も進めつつも、教員のみでなく学力保障サポートが求められている。また学力向上だけでなく人としての成長支援の視点も。

⇒ 「元気アップ」「はぐくみネット」のような学校を支援する取組の重要性が増大
地域が「生徒達が学習できる土壌づくり」として学校のサポートを行える仕組みづくりが重要。
個人の力量だけに頼らないものにしていく仕組みづくりも必要。

提 案

- ①地域＝行政機関、町会、企業・商店街、団体など、より広く地域資源を活かし、地域に根差した青少年育成に貢献できないか？
- ②学校＝教職員、生徒、PTA、卒業生、小学校、教育委員会などと課題の共有と協力関係の強化を！

具体的な取組や改善



